

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年5月(2003年) No. 449

絢爛豪華な 日野祭撮影会無事終了

5月2日(金曜)3日(土曜)と開催しましたOMC恒例の一泊撮影会は、滋賀県指定無形民族文化財、日野祭りをメインテーマとして宵祭から本祭まで、お天気に恵まれて快調にビデオカメラも回ったようです。日野祭りはまだほとんど知られていなくて、ロケハンのときに「あんなにさびれかけている活気のなさそうな町で、はたしてどれだけの祭が行なわれるか」若干の不安もありましたが、どうしてどうして、さすが800年の古い歴史があるという祭りだけに、絢爛豪華な祭りに圧倒されました。色彩も華やかで被写体として申し分なく、ビデオカメラも回りっ放しといった状態でした。これからどう作品にまとめたらよいか、参加諸氏の頭の痛い問題が当分続くのではないのでしょうか。祭は本祭の3日夜まで続くということでしたが、帰りの電車の都合もあって一部車で来ていた人を除き、16時にホテルに集合して送迎バスにて日野駅へ向い帰路につきました。かなり歩き回ったので皆さんお疲れだったと思いますが、無事終了してほっとしているところです。参加者は全部で13名でした。

■撮影会作品公開審査は6月例会にて

日野撮影会作品メ切りは6月例会とし、不参加者による公開審査を行います。出品賞を始め入賞者にはもれなく記念品を贈呈します。

また、最優秀作品は秋の公開映写会にて上映します(作者の意向により2位以下の作品になることもあります。)参加者は全員、作品にまとめて出品して頂くようお願いいたします。

5月例会のお知らせ

5月例会は、予告通り第5土曜31日18時よりに変更になります。お間違いのないように願います。いい季節となりビデオカメラ持参で旅を楽しんだり行事を記録された方も多と思います。ぜひ作品をお持ち下さい。月1回の楽しい集いです。楽しいひとときを過ごしましょう。

日野祭り撮影会報告の記

毎年5月3日の本祭りと前日の宵祭りは、古くから伝わる大きな祭りだそうで、この企画を提案されたのは岡本さんでした。残念ながら岡本さんは不参加でしたが、8ミリフィルム時代に撮影会候補としてロケハンしたことがあった由で、結局撮影会は実施されなかったが、一度は撮影してみたいとの希望を持っておられたようです。

日野祭りのことは全くというほど知らなかったのですが、かなり大掛りな古い伝統を持つ祭ということが、実際に行ってみて初めて実感しました。

第一日目の宵祭の日は日野商人銅像や日野商人館内の撮影、古い町並みの撮影から曳山の準備風景などを撮影、一旦ホテルに帰って早目の軽い宴会をすませ、提燈で飾られ笛太鼓で賑やかな夜の曳山を撮影に出掛けました。撮影が終わってから部屋での二次会を楽しみました。

二日目、祭本番の日、各町内から出る曳山が馬見岡綿向神社に集まる様子や、神子の行列など午前中の行事を撮影、午後は大神輿が3基、神社から出発して町内を練り歩いてお旅所までの行列を撮影。特にこの地方独自の棧敷窓の前を行列が通る状況は絵になる構図でスチールカメラマン達が群がっていました。かなりの歩きで疲れましたが、満足して帰路につきました。

4月例会のレポート

4月例会は26日18時より大阪駅前第2ビルのいつもの例会場にて開催、季節も良いせいか28名の出席と14本の作品で大忙しの充実した例会となりました。中尾さんが今年初めて元気なお顔を見せられました。

今月の司会は合原氏、書記、前田氏、デッキ担当、河合、増池の両氏、受付兼照明係は奥、渡辺の両氏の担当で会を進行。

■出席：有村、今井、岩井、江村、岡本、奥、上総、河合、合原、関、進藤、那須、西村、玉井、中尾、華岡、藤原、松本、森、前田、増池、森下、森田、森口、安居夫妻、渡辺、山本の以上28氏（敬称略）。

上映作品（今月の好評は前田世話役です）

1. 伏見名水めぐり

森口 吉正さん 7分40秒

各地の“名水めぐり”の作品を手がけられていられる森口さんの最新作は、京都伏見の名水を訪ねてです。伏見といえば、いわずと知れた酒所ですが、旨い酒の産地にはよい水が湧き出ていることはよく知られています。弁天さんの長建寺から、大倉酒造、御香宮神社に至る名水の紹介です。今回の名水は、いずれも湧出量が少なく、前回見せてもらった大山の名水と比べてその量の少なさに驚きました。大自然の湧水と都会の湧水の違いでしょうか。作品はよく調べて構成されており、この分野の得意な森口さんらしい的確な構成と、独特な語り口で最後まで引っ張って行かれました。かつて月桂冠の工場で正真正銘の搾り立ての“原酒”を賞味する機会がありましたが、その時飲んだ、まろやかで、こくのある、とろけるような生酒の味を思わず思い出しました。酒蔵の原酒は決して街では味わえない風味とこくがある美味しい酒です。

2. レクイエムⅡ

関 剛さん 7分8秒

この作品はレクイエムⅡとされていますが、Ⅱは前作“負の遺産”に次ぐという意味でしょうか？レクイエムの意味は鎮魂歌だそうで、第二次大戦で失われた多くの御霊を鎮めるにふさわしい映像です。作者は何しろ時間がなくて画が不足で困ったと云われたがなかなか大した映像美を伝えておられます。時間不足で三脚が使えなかった状況は手持ちの撮影の1コマ映像を何カットも使っているのも、時間がなかったのだなと同情しました。作品構成はさすがに関さんらしい、抽象的映像で独得のBGMの使い方と相俟って非常に効果的な印象を受けます。前作アウシュビッツと比べて解りにくいとの声もあり、そうとは思いますが、これはこれで作者の戦いで散った人々への哀悼の心は十分に感ぜられる作品でした。

3. 来迎浄土万灯会（改作）

玉井 勺さん 11分20秒

先月出品された作品の改作で、今回はナレーションをいれましたと持参されました。この改作を観て気付いた点は、イント

口が1分50秒あって、それからおもむろにタイトルを出す手法が取られているが、いかがなものだろうか、やはり普通にタイトルはTOPに出して欲しいと思います。続く夜のろうそくのシーンは2分で、無音に近いSEのみ、ここも20～30秒はSEのみで見せてから、徐々にBGMで盛り上げて欲しいところです。先月の講評でもありましたが、前半の灯火と、後半の灯火とが分断されており、違和感を感じるとともに作品の構成に疑問を感じてしまいます。やはり正攻法で、お寺の紹介からスタートし、住職の苦心談、当時の新聞を挟み込んで、最後に灯火の映像で、観客を幽玄の世界に引き込んで欲しいと思います。作者は撮影、編集、録音、ナレーション等ビデオ制作のあらゆる技術に素晴らしいものを持っておられるので、再構成されたら、素材がいただけない共感を呼ぶ作品になることと思います。

4. 青の雄叫び

有村 博さん 7分40秒

有村さんの作品には、なかなか凝った題名がありますが、この作品もその一つではないでしょうか。観るまではどんな内容か興味をそそられました。作品内容は、天王寺の清風高校の剣道の練習風景だけです。剣道衣の青色と、練習の激しい雄叫びで納得でした。映写前に作者からSEのみで、BGM、ナレもないとのことでしたが、それも観たら納得できます。激しく振動する床に三脚を立てて撮影されているので、カメラが激しく上下にブレます。こんな状況ではプロはどのように撮影するのであろうかと、ふと考えました。

5. ささやきの小道

安居 良枝さん 6分0秒

奈良は、京都とは違って街のすぐ側に広大な緑地と自然があって、しかも古い伝統と由緒あるお寺や神社があって写真やビデオに絶好の被写体が沢山あります。この作品も有名な寺社を押さえて、自然林と落ち着いた住宅地で構成されています。高畑とささやきの小道の観光的な紹介で進んでいきます。良枝さんの作品はこれまで自己主張のある作品が多かったが、この作品は淡々と語ってくれます。最後に静かなささや

きの小道や落ち着いたたたずまいの高畑がお奨めと結んでいます。

6. ジャジャ馬ならし

安居 利次さん 7分40秒

”ジャジャ馬”とは家内のことですので、作品はスタートしました。この作品を観ての第一印象は、随分仲のいいご夫婦で、よくぞここまでご家庭の内情をオープンにして作品にされたものということです。良枝さんを見初めてから、デート、結婚、姑と嫁との葛藤、奥さんの重い心臓病、誓約書、息子さんの結婚まで、ご家庭の内情全部判りました。そこまでしてこの作品をモノにしようとする安居家は、明るい健康的な家庭なのだなど、アテラレばなっしの映像に”ごちそうさま”でした。

古い映像はPIPにする方がよいという指摘が司会者からありました。

7. OAP周辺

増池 茂さん 9分7秒

大阪に住んでいても、OAPを知らない人は多いのではなかろうか。桜ノ宮銀橋の北側だそうで、大阪アメニティパークの略称とのこと、何でもOBBの向こうをはって建造されたようである。作品をみてなかなか綺麗な風景のところでいずれ認識されるであろうと思います。作品は心地よいBGMに載せてたんたと流れていきます。このような作品で俯瞰が撮れた場合は、TOPに持ってくるのが常道でしょう。カメラはCANONの20倍だそうで、その威力は十分に発揮されていました。

8. 椿まつり

江村 一郎さん 6分35秒

江村さんの作品は、いつも始まる前に大きな期待感を持って楽しみにするのだが、この作品はいつもの”江村流”という映像のキレや、鋭さ、カット繋ぎの巧みさ、テンポの良さは発揮されていませんでした。長々と続く巫女さんの舞を、ミディウムサイズで撮っておられる。記録としての作品ならいいのであろうが、江村作品は記録を狙っていないはず。確かに纏め方の難しい素材である。巫女さんの髪飾りの白い椿のアップは印象的でした。

9. 仏画 渡辺 雄史さん 9分7秒

渡辺さんが初めて挑戦されたドキュメン

タリー作品です。いわゆる出来るまで映画（ビデオ）といわれる分野の、なかなかの大作で丹念に撮影されておられます。下絵の最初の墨入れから、何度もの下絵の修正、本作の下書き、墨入れ、色入れなど制作過程の要所要所にテロップも入れてあり解りやすく作られています。息抜きに散歩する先生の様子や、仏画教室の情景などもあり、密着して取材されたご苦労がよく伝わってきます。作品が完成するまでの淡々とした行程は良く理解できるのですが、山場がないのが惜しまれます。何でもこの労力が落選したそうで、もし入選されていたら、そこが最高の山場になったのでしょうかが惜しかったですね。BGMの選曲と使い方に再考されたら良いと思います。それにしてもかつての OMC のフィルム時代からの伝統的なドキュメンタリー作品の登場で今後大きく期待されます。

10. 兵馬備

上総 修一郎さん 5分28秒

いつも上総さんの作品は、独特の語り口と、豊かな表現力の文章で観客に迫ってくるのですが、この作品はどういうわけかノンナレ作品です。映像は精緻で大きな偶像の大群衆が迫ってきて迫力があります。自分の映像と写真とのミックスもそつなくこなされ違和感はありません。やはり、作者独自の視点でナレーションを語り、ご自身の印象を述べて欲しかったとの一言につきと思います。

11. 住吉大社初詣

森 保信さん 6分43秒

大晦日と元日午前中の住吉大社の初詣風景です。太鼓橋に意外と参拝客が少ないのは元旦でも午前中だからだそうです。しかし太鼓橋でカメラを構えると、警備員が飛んできて、“どこの局ですか？”、作者いわく“私は下請けだから、どこの局かは分らない”。この漫才みたいなやりとりで一同大爆笑。作者は、VX-9000で撮られており、一般の人はプロと間違えたというお話。

12. 津軽凍てる

河合 源七郎さん 6分31秒

厳寒の湖と氷瀑の映像集です。湖は凍りつき、滝も凍りついて氷瀑となりまさに凍えんばかりの映像です。しかし、聞けばマ

イナス5度とか、-5℃では驚くような寒さではない、撮影時はその気温だったのでしょうが、あの氷塊が生成される気温は、はるかに寒かったはずで、“凍てる”という雰囲気は良く出ています。しかし、突如大きな音声で滝が出てきたのは驚かされました。ここはまず TOP シーンにあったようなツララが解けるアップの映像を見せてから、滝の音を5~10秒位フェードインしてから、映像と音声を出すべきでしょう。一般的に効果音(SE)は映像より少し早めに聞かせるほうが効果的なケースが多いようです。BGMの純日本風の笛にも、意見がありました。洋楽でもう1本作られたらいかがでしょうか？、と司会者からのアドバイスがありました。

13. 総本山園城寺三井寺の桜

那須 典彦さん 4分38秒

某クラブの撮影会同行作品だそうです。満開の桜と快晴の天候に恵まれこれ以上に望めないという綺麗な映像です。しかも作者の的確なカメラワークで手際良くまとめられています。作品はスケッチそのもので、このような作品は誰が撮っても似たようになるのではないかと思います。

14. アラビア海の漁民達

山本 正夢さん 6分30秒

先月の“ホータン”に引き続いて、誰も行けない世界の僻地の映像です。山本作品はこのように一般の人が撮れない映像を見せてくれるので期待しながら作品発表が待たれます。しかもガッシリとした撮影テクニックと確かなカメラアイ、イントロの逆光のシーンは秀逸です。この作品も、前作品もそうでしたが、全編にBGMが流れるのはいかがなものでしょうか。BGMだけ、SEだけ、BGM+SE、無音のみ、と映像に合わせた音声を付けると、遙かに効果的な映像集になると思います。巨大な四つ手網？には驚きました。この作品はほとんど全シーンが珠玉のカットの連続で、あと音処理を再考されることを期待しています。また、なるべく歌のないBGMを使うほうが良いと司会者からのアドバイスでした。

■今月のインターネット作品

「仏画」 渡辺 雄史さんです。